

# 西新井税務署長賞

## 「税は罰なのか」

足立区立 伊興中学校

三年 佐藤 悠

「税は罰」という言葉を知っていますか。この言葉は文字通り、納税は何かをしたことへの罰だとする考え方です。例えば、たばこ税ならたばこを吸った罰、住民税ならそこに住み続けている罰といった解釈がされています。こういった考え方をする人も少なくありません。私も、昔は同じような捉え方をしていました。税金の使われ方を少ししか知らなかったからです。ところが、そんな私の税金へのイメージが変わる出来事がありました。

中学二年生るとき、胃腸炎にかかったことをきっかけに長期的な体調不良になってしまい、学校を欠席したり、早退したりしていました。現在は体調も回復していて普通に通えています。ですが、当時は何回も病院を利用していました。そんな時、医療費はどうしているのだろうかという疑問が、頭に浮かびました。もともと中学生までは医療費が助成されることは知っていましたが、その費用がどのようにして補われているかは知らなかったからです。実際にインターネットで調べてみると、正式な団体だけでなくブログなどでも税金の使われ方が紹介されていました。医療保険に加入した人が分担費を払い、それでも足りない分を税金で補っていることを知りました。こ

のとき、はじめで税金が教育以外にも使われていることを知りました。私はこんな身近なところでも税金が活躍していると思ってもいかなかったもので、とても驚いた覚えがあります。もし、税金がなかったら、自己負担が重すぎて病院に行くことをためらってしまい、病気が治らないどころか、悪化してしまうと思います。なので私は、自分の経験から税金という制度があって本当に良かったと思っています。今の私からすれば、税金は自分を支えてくれたものであって、決して「罰」ではありません。

さらに調べていく中で、日本の医療費は経済協力開発機構加盟国の中では四千六百九十一ドルの十五位で、一位のアメリカと比べると半分以下の額であると分かりました。アメリカの医療制度は日本とは違い、医療費が自己負担となるため、破産してしまう人もいるそうです。しかし日本では、一人一人がお金を出し合ってお互いの負担を抑えています。誰かが医療保険を利用するとき、私たちはその人を支えていて、私たちが医療保険を利用するときもまた、誰かに支えられています。税金は「罰」ではなく、誰もが安全で健康に暮らしていくための「思いやり」であり、もしもの時のための「プリペイドカード」なのです。なので、私はきちんと納税するようにしたいです。

税金に不満を持つのは、税金が使われている社会保険などを利用せずに安全で健康な生活ができている証でもあるので、私も健康的で安全な生活を心がけ、必要な時に必要な人のために税金が使われるようにしていきたいと思います。